

日曜日の風景

何でもない週末の、
何でもない一日
Scene No. 66

掲載時反響の大きかったKONARA HOUSEの家。
今回は本連載を見て、予定のなかったマイホームづくりを
決断したというお宅です。緑溢れる鎌倉で借家を
愛でながらの暮らしは、まるで別荘のようにのびのびと開放的。
そしてセンスに溢れています。

撮影／渡辺修身
取材・文／鈴木奈代
デザイン／Permanent Yellow Orange



窓ぎわのびのびと広々としたベッドルーム。
アーマンのウッドファクターは風を通し、日
差しも調整できて居室に最適。ベッドカバー
やクッション類はzara homeのもので、新築
校いにKONARA HOUSEから頂いたそう。



日曜日の風景
Scene No. 66

本連載がきっかけで スタートした家づくり

「こんな家に暮らしたい」

きっかけは本連載17回目に掲載されたKONARA HOUSEの家。奥さまが誌面を見てその場で資料請求をし、その後アポイントを取って、当時暮らしていた三重県から茅ヶ崎まで車で通ったという驚くべき行動力です。「それまで家建てるなんて思ってもいなかったのですが、世界観がどんぴしゃで、まさにひと目惚れでした。こういう家なら湘南に建てるのが良いだろうと、まずは土地探しからお願いしました」。その後、ご主人の転勤で再び東京に戻った際には、家具屋めぐりに便利だからと目黒通り近くで暮らすほどの徹底ぶり。お嬢さんの小学校入学に合わせて、昨年の3月に鎌倉の新居での暮らしがスタートしました。購入した土地は50年近く前に造成された閑静な住宅地にあり、長く空き地だったため大木が茂っていたとか。家建てるために伐採したところ、目の前が森だったというサプライズも。思いがけず、ダイニングキッチンやリビング、お風呂からも緑と空しか見えない、まるで別荘にいるかのような自然と寄り添う暮らしとなりました。「マンション暮らしだったので、お風呂に窓があるだけでこんなに気持ちが良いんだと感激しました」と奥さま。ご主人は「ポーチで森を眺めながら読書するのが週末ごとの楽しみです」とにっこり。他にもバーベキューをしたり、庭で野菜を育てたり。広いキッチンではご主人も料理の腕をふるうようになったそう。「家で過ごす時間が長くなり、すっかりお金を使わない暮らしになりました」。

プランは、奥さまが料理やリボンのお教室をするために1階をダイニングキッチンのあるパブリック、2階はリビングと個室のあるプライベートときっちりスペースを分け、お教室中も家族にストレスをかけないよう工夫しています。1階はグレー、2階はベージュを基調にし、洗面、トイレや個室はテーマカラーを替え、扉を開けるとガラリと印象が変わる楽しさ。作り手と住み手のセンスの相乗効果で、「結婚してもこの家で暮

らしたい」と娘さんが言うほど、とびきり素敵で快適な家に仕上がった柚木邸。本連載がきっかけなんて……感激です。



柚木邸data

結婚後、賃貸マンション暮らしを経て、本誌でひと目惚れしたKONARA HOUSE (http://www.konarahouse.jp) に土地探しから設計施工まで依頼し、家を建てる。/神奈川県鎌倉市在住/約150㎡/ご主人、一児8人、(42歳)、料理&リボンワーク教室Gauge (http://ameblo.jp/gauge-salon) を主宰する奥さま、恵子さん、(42歳)、紅春ちゃん(6歳)の3人家族。

1. 1階はグレーを基調にしたパブリックエリア。キッチンはKONARA HOUSEのオリジナルで、L字部分の扉は白、アイランド部分のみグレーに。キッチンのタイルは奥さまが選んだお気に入り。2. ダイニングテーブルは幅170cmのものを2つ並べて置き、大人数のお教室時にも対応できるように。照明と一緒にアップタウンスタイルホームで購入。3. 窓辺にはソファ代わりのベンチシートを設置。



バスルームからは森が見え「週末は朝いちうちに入り、湯船で主人はビール、娘はアイスを食べたり」。洗面スペースは黒を基調にホテルライクな仕上がり(11・12)。読書付きのポーチに吊したハンギングチェアで読書するのがご主人のリラックスタイム。下にはさらにテラスがあり、庭のレモンの収穫も(13・14)。2階のリビングは天井も高く開放感抜群。ご主人の机も置き、家族が寛ぐ間に、階段には娘さんがシーンを飾った、鎌倉の海で拾った貝殻が(15・16)。玄関横には靴、コート、バッグ、アクセサリー類まで収納できる大きなクローゼットを設置。お出かけ前の身支度はここで完成(17)。テーブル上のセッティングやディスプレイもセンス抜群。シルバの持ち手付ディスプレイはバリエーションで購入し、ランチョンマットとしても活用。ランチのメインはご主人が手製のリア(18・19)。子供部屋の壁は娘さんの好きなブルー。ベッドはイケア(19)。1階のトイレは壁をブルーの濃淡で塗り、床や天井は大理石に(20)。パントリーには奥さまの机も(21)。





1. ベッドルームの壁紙は、向さまで壁紙専門ショップWALPAで選んだもの。大好きなパープルがかったモーヴピンクに、光を受けてキラキラと光るグレーの模様がお気に入りだとか。壁紙の模様とグレーに合わせて、クローゼットの扉や棚壁もグレーに。2. 1階のゲスト用トイレのペーパーホルダーは、ヤスダプロモーションが扱うCALIFORNIA Euro collectionというシリーズ。3. 家族が寛ぐダイニングルームの空辺に設置したベンチシートには、zora homeのフェイクファーのブランケットとクッションを。4. ベッドルームとリビングのペンダントランプは、オルネドフォイユの姉妹店、アンスピラシオン（現在は閉店）の前を自転車で通りかかった際に偶然見つけたもの。コード部分を隠すために、お手製のピンクの布でクシュクシュと覆っているのもオシャレ。5. 真鍮色のキッチンの水栓金具はコーラー社のもので、アイランドカウンター部分にも手洗い用の小さな洗面ボウルを設置し、ソーブディスペンサーもビルトイン。カウンターの天板は黒の大粒石。6. コロンとしたフォルムが可愛いシリコンナイフはダルトンで購入。自立するので使い勝手も◎。7. お教室でも普段使いにも活躍するのがフランス、COTE TABLEのグレーのディナープレート。食洗機や電子レンジにも対応する扱いやすさも魅力です。8. イタリアのBaci Milano社のアクリルのグラス類は、割れる心配もなく、ピクニックやバーベキューなど外ご飯のときの必需品。同ブランドのカトラリー類も愛用中。9. フルーツを入れたステンレスのカゴはバフコレクションで。

デザインだけでなく、収納、設備と機能面も充実

「家具や照明、壁紙などは自分で選びました」と、もともと家具やアートを扱うショップに勤務し、大のインテリア好きという奥さま。KONARA HOUSEに出会う前はもう少しモダンなインテリアも好きだったそう。今はこの家に合うか否かが家具や食器を選ぶ時の判断基準。インテリアだけでなく、パントリーにクローゼットと収納がたっぷり確保され、全館空調や床暖房も設備され、機能性抜群で住み心地がよいのも大きな魅力です。